

ハクセル美穂子の
ポリティカル・テーマ

Growing
Together!
みんなで創る「いわて」

いわて
県政レポート
2020
秋号

岩手県議会議員

ハクセル
美穂子 MIHOKO HUXEL

100年先も
「いわて」が「いわて」であるように、
みんなで創る「いわて」



ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 雫石町生まれ
◎家族/アメリカ人の夫、4人の息子(中2、小6、小5、小2)
◎職業/英会話教室経営
◎趣味/読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴/雫石町立御明神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
◎経歴/平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選

f ハクセル美穂子オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



ハクセル美穂子 これまでの活動

2020年
6月

◎6月11日/臨時議会

国の第2次補正予算に盛り込まれた、新型コロナウイルス感染拡大の防止と社会経済活動の維持を両立させるための事業を岩手県ですできるだけ早く取り組むために臨時議会を開き、244億円余の関係予算案を議決しました。この予算案には、新型コロナウイルス感染患者の受入体制整備に関する経費や県内の社会福祉施設(保育園、放課後児童クラブ、介護施設等)に対する感染症対策関係物品購入等の経費助成が盛り込まれています。

◎6月29日/6月定例会

11日の臨時議会に引き続き開催された6月定例会。

地方活力向上地域における県税の課税免除等に関する条例の一部を改正する条例などの条例議案、請負契約及びその他の議案合計14件の議案を議決しました。



バス協会要望書受領式の様子

2020年
7月

◎7月12日/三陸沿岸道路(宮古中央JCT~田老真崎海岸IC) 開通式

商工建設委員長として三陸沿岸道路開通式に出席。

三沿道の開通により、釜石~宮古間が車で約1時間! 時間的距離が大幅に短縮されました。



三陸沿岸道路開通式

◎7月21日/市町村要望(雫石町)

◎7月27日/県バス協会要望書受領式

新型コロナウイルス感染拡大の防止策の影響が大きくみられるバス事業者の皆さんから、新しい生活様式を実行する場合に半分の乗車定員にならざるをえず収入が半減してしまう等、悩ましい課題が山積している現状と支援策について要望をいただきました。

感染拡大が抑制されている地域からの誘客や県民による積極的な県内観光の実施を促す政策など、国の支援策とも連動した政策が着実に進められるよう県議会からも提言していきます。

2020年
8月

◎8月3日/災害対策本部会議

◎8月4日/常任委員会

今年4月に開所されたヘルスケア産業の新拠点となる貸研究施設「ヘルステックイノベーションハブ」を視察しました。岩手大学を中心とした産学官金連携で生まれた企業や新型コロナウイルスの抗体検査キットを開発した企業などが入居、活発な研究活動を展開していました。

◎8月5日/人口減少対策調査特別委員会・県政調査会



リモートで行われた初めての県政調査会の様子

◎18日/市町村要望(滝沢市)

さる9月8日に令和2年度岩手県一般会計補正予算(第4号)議案を含め議案3件及び報告6件を審議する臨時議会が開かれました。この補正予算(第4号)は、国の2次補正に対応し取り組まれる事業に関するもので、759億円余を増額補正しました。



今回の補正予算の中で、私が特に注目している事業について皆様へご紹介いたします。



①新型コロナウイルス感染症対策市町村総合支援事業費補助 20億円

この新型コロナウイルス感染症対策市町村総合支援事業費補助は、県内各市町村に対して定額の補助を行うものです。各市町村の実情に合わせた事業、例えば、肥育牛の活用対策や保育士に対する慰労金など、市町村独自で行っている新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立に関する事業に用いることができる補助金です。このような市町村の判断により活用できる補助により、地域の実情に合わせた対策が可能となります。県内各市町村で有効に活用していただけるよう期待しています。

②感染症等健康危機管理体制強化事業費 400万円

東日本大震災津波の時に全国初の取組みとして避難所等の感染制御対策を担う支援チームとして全国に先駆けて取り組まれ、その後、大規模災害等での活用を見据え常設されているICAT(いわて感染制御支援チーム)。このICATが、新型コロナウイルス感染症対策で開設されている地域外来・検査センターでの感染管理指導の一翼を担っています。県内の医療機関、福祉施設等において新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生が疑わ

れる場合には、ICATのメンバーが現地に派遣され感染管理指導に当たります。このICATの活動に要する経費が追加補正されています。感染事例が23例目まで増加している岩手県において、ICATの更なる活躍を支援していきます。

③県立学校ICT機器整備事業費 2億8200万円

県立高校が生徒へ貸与するタブレット等の整備に要する経費を追加補正しました。経済的にタブレット等の導入が困難な生徒に対して貸与ができる機器整備により、格差是正と教育環境の充実に取組みます。

④新型コロナウイルス感染症によって影響を受けている中小企業の資金繰り支援策関係

◎新型コロナウイルス感染症対策資金貸付金 153億円

感染症対策資金(低利率の県制度融資資金)の貸付枠を200億円から500億円に増額するために貸付金を153億円追加します。感染症収束までまだまだ予断を許さない状況ですが、貸付金の積み増しにより今後も県内中小

企業を支えていく資金環境を強化します。

◎新型コロナウイルス感染症対応資金貸付金 351億円

感染症対応資金(民間金融機関による3年間実質無利子無担保融資)の貸付枠を800億円から1500億円に増額し、今後の資金需要に対応するために351億円を追加するものです。

◎新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時基金積立金 9億6200万円

これから要する感染症対応資金貸付金等の利子および保証料補給に必要とする経費を基金に積立し、後年の利子補給資金を確保するものです。

このほかにも、バス・タクシー・鉄道事業者が安定的な運行を維持するための支援や新型コロナウイルス感染症拡大の影響が如実な肉用牛肥育経営に対する支援策などが予算計上されました。今回拡充された予算を活用し、新型コロナウイルス感染拡大の防止と社会経済活動の両立を図るための取り組みをさらに進めていきます。

2020秋号コラム COLUMN

ハクセル美穂子が考える

次世代へ受け継ごう！ 持続可能な「いわて農業」はこれだ 【稲作編】

岩手の農業の本幹は、やはり稲作ですね。明治34年に農事試験場が設置されたことをきっかけに岩手の近代農業がはじまりましたが、それから一世紀、品種改良が重ねられ、「金色の風」や「銀河のしずく」といった岩手の風土に合った美味しいお米が作付けされています。



一関遊水地内の大区画化された圃場

さて、この米生産、年々規模拡大が進み家族経営でも10ha～20ha、農業生産法人ではさらに80ha～1000haという大きな面積を耕作するようになってきました。このように岩手の稲作の経営は大規模していますが、生産基盤である水田一つ一つの面積といえば30a区画が主で、岩手県全体の50%を占めおり、50a以上の大規模な区画の水田はわずか10%というのが現状です。

私はこれまで、岩手の農業経営を考える時に、家族経営であれば農業産出額3000万円を目標にするべきと提言をしてきました。この3000万円という額は、秋田県の中で唯一消滅しない村とされた大潟村で、後継者があり次世代への引き継ぎができていく農家の平均的な農業産出額です。中山間地が広がる岩手県内で農業産出額3000万円規模の農業経営に近づいていくのは不可能だということもご意見もありますが、限りなくこの金額に近づいていくことを目標に様々な農業政策を実施していくことが重要と考えます。その行うべき様々な農業政策の一つ

が農地の大区画化です。現在の30aよりも大きな区画にして、作業効率を上げ農家負担を少なくすること、1家族で耕作できる面積を増やしていくための工夫が必要です。それが大区画化なのです。現在は、高齢者世代の季節労働力を活かして、小さな区画であっても人海戦術で農業経営を進めることができますが、今後はさらに人口減少が進むと見込まれています。そういったことも踏まえると水田の大区画化による生産コストの低減策は、岩手の農業が生き残っていくのかどうかを左右する大切な政策であると私は考えます。



自動操舵システム搭載トラクター、手放しても進みます。

現在、岩手県内でも、県南地区で大区画化が進められています。私は先日、農業農村整備協議現地研修会に参加し、実際に大区画化しスマート農業を実践している一関地域に足を運びました。

大区画化に伴い、水路が地中に埋設され枯れ葉や草などによってせき止められることなく水が安定的に供給されています。加えて、水路の管理が非常に楽になったとも話されていました。ICTを活用した農業機械を利用することが、若い後継者が力を発揮できる場づくりに役立っており、また若者が農業に魅力的を感じるきっかけの一つにもなっているという事もお聞きしました。私たちに事例を発表してくれた意欲のある若手の活躍を目の当たりにして、こんな風にやりがいを感じてもらえる農業が岩手県各地で行われるように支援を続けなければと感じたのです。



北限のクロメダカを守りながら大区画化を実現した、一関門崎地区にて取組を聞ききました。

私は今後も、スマート農業の導入を見据えた水田の大区画化を中山間地域でどのように進めていけるのか、そのための支援策はどうあるべきなのか、活発な議論を進めていきます。そして、次世代に受け継げる岩手の農業を力強く支えていきたいと願っています。

10月7日午後1時からの私の一般質問でこの課題を取り上げます。
ご興味のある方は、県議会で傍聴しませんか?
県議会HPで生中継もありますよ! ぜひご覧ください!

